

## 池本めぐみ

(現 国立国際医療研究センター(NCGM)  
国際医療協力局助産師/シニアアシスタント  
ディレクター)



池本めぐみ氏は、兵庫県立大学大学院看護学研究科の博士課程の学生として、2017年11月から2018年3月まで、緊急事態下における「災害看護」の分野のインターンとして勤務しました。

「国際保健におけるトレンドと主な問題について学び、そのことが国際看護師協会の学生代表として2018年の第71回世界保健総会(WHA)への参加につながりました。WHO神戸センターとWHAでのこうした経験が、国際保健に関する私の人生のターニングポイントとなり、2020年1月にNCGM国際医療協力局への入職につながりました。現在は人材育成に携わり、開発途上国や日本の人々への研修指導を行っています。

WHO神戸センターが25周年を迎えた2020年には『Nursing Now』キャンペーンや、『国際看護師・助産師年』にも関わり、同年9月に博士課程を修了しました。」

WHO神戸センターで最も大規模かつ包括的な研究プロジェクトである**認知症の社会負担軽減に向けた神戸プロジェクト**は、神戸大学、神戸市、神戸医療産業都市と連携して進められています。この多年にわたるプロジェクトの目的は、認知症患者や認知機能が低下しているその他の患者の管理に向けた保健制度を研究し、政策に寄与することです。